

6年 わたしの地図活用

もっと地図帳を使おう

～歴史学習に地図帳の活用を～
長崎県西海市立瀬戸小学校 福田 浩久

1 はじめに

地図は子どもたちが社会科の学習をすすめていく際、なくてはならない大切な基礎的資料である。だが、実際にその活用の状況はどうだろうか。

6年生になり、社会科は『日本のあゆみー歴史学習』へとそのステージを移す。5年生まではよく学習に活用されていた地図帳も、教科書や資料集等に略地図が載せられているためか、授業の中で使われる機会が少なくなってくるのが現状である。しかし、地図を使わずに歴史が学べるのだろうか。そこで歴史学習にも積極的に地図帳を使っていきたいと考え、次のようなわたしなりの地図帳の活用法を考えてみた。

2 元寇一元軍の経路をたどる

鎌倉時代の学習で、子どもたちは元との2度にわたる戦いについて学ぶ。

1200年前半、モンゴルはアジアからヨーロッパにまたがる大帝國を築き、その第5代皇帝フビライは1271年、国号を元と改めて朝鮮半島の高麗を制圧した後、日本を従えようとした。元は要求を拒否しつづける日本に対し、1274（文永11）年、高麗との連合軍3万数千人をもって博多湾に攻め入った（文永の役）。

さらに南宋を滅ぼした元は、1281（弘安4）年ふたたび日本におしよせてきた。東路軍は博多湾に姿をみせ、激しい戦闘を行ったが上陸をはばまれた。その後江南軍と合流し再び博多湾を攻撃する予定だったが、7月1日夜の暴風によって大部分の船が沈み、退散した（弘安の役）。

この2度にわたる戦いでは、実はわたした

ちの長崎県対馬、壱岐もその戦いの場となっている。だが、子どもたちはその事実をあまりよく知らない。

『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』のp.21～22の「九州地方の地図」を開く。地図帳には主な歴史に関する地名や事項を青で囲って載せている。日頃見慣れている対馬を改めて見た子どもたちは、ある記述に気づくだろう。そこには「元寇古戦場跡」と記されている。自分たちが学習していることがら、自分の住む長崎県とつながりがあることに子どもたちは驚き、より身近に元寇についての学習を進めていくことができるのではないかと考える。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』 p.21

今度は九州北部へと目を移す。壱岐から南東に海を渡ると博多湾があり、そこには「元寇防塁跡」と記されている。元軍の上陸を阻む目的でつくられたその石垣は、高さ2～3m、長さは何と20kmにも及んだという。対馬から壱岐、博多へと攻めてきた元軍の経路を子どもたちはたどり、その位置関係をしっかりとらえて学習内容を理解することができるのではないだろうか。

3 おわりに

まもなく学習指導要領が改訂されるが、その改訂のポイントとして挙げられている都道府県の位置や名称、世界の主な大陸や海洋、主な国の位置や名称などを学習していくうえで、地図帳の効果的な活用はさらに欠かせないものとなっていくであろう。地図帳を学習の中で効果的に活用し、社会科好きの子どもを育てるとともに、「地図って楽しいね!」「地図大好き!」といえる子どもを育てていきたい。